

## 国語科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 対象 第1学年組 男子 名 女子 名 計 名

2 日時 平成 年 月 日 (曜日) 第 校時 : ~ :

3 場所 第1学年組 教室

### 4 指導内容

[知識及び技能]

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等]

A 話すこと・聞くこと

オ互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ウ語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かる

ように書き表し方を工夫すること。

C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。

### 5 単元・教材名

単元「動物クイズ大会をしよう」 教材「くちばし」

### 6 単元について

#### ① 教材観

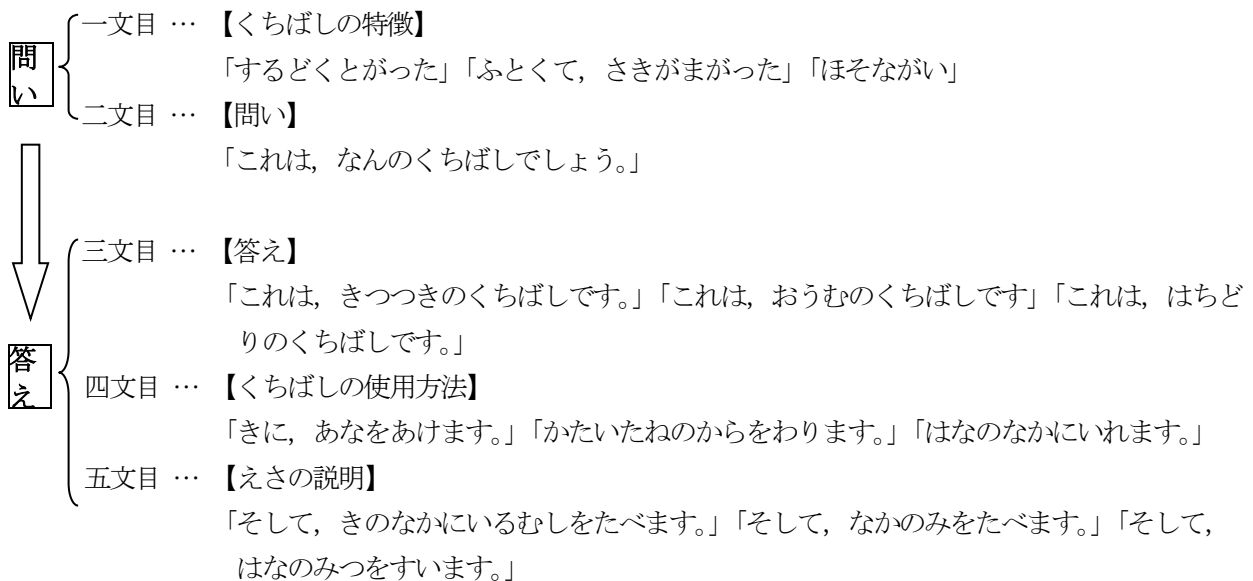
本単元で扱う『くちばし』は、入門期の児童が会おう初めての説明的文章である。鳥は、児童にとって親しみやすい動物である。教室の窓から見えるカラスに反応したり、授業中に聞こえてくる、様々な鳥の鳴き声に耳を傾けたり。しかし、くちばしに焦点を当てるとなると、経験だけでは分からない、未知の不思議が出てくる。不思議に出会った児童には、大人では考えられないほどの知的好奇心が芽生える。「なぜだろう。」「もっと知りたい。」という、子ども特有の素直な好奇心が自然と浮き出てくる教材としても価値がある。

また、本文は、単純な「問い」と「答え」で構成されている。三種類の鳥の説明とも、まず左ページで「問い」の文章と、それに対応する詳細なくちばしの絵がある。そして、児童は「問い」に色々な思いや考えを巡らし、ワクワクしながらページをめくる。すると、右ページで「答え」の文章とそれに対応する鳥の全体写真が出てくる仕掛けとなっている。児童の興味関心をそそるような、クイズ形式での構成が繰

り返されているのである。さらに、本文には表されていない鳥の写真もたくさん使われており、児童は興味・関心を持って読み進めていくことができ、そして自然と説明的文章に慣れ親しむことができる。

さらに詳しく、文章構成を探っていく。

本文は「問い」が二文、「答え」が三文、という文章構成の繰り返しで三種類の鳥のくちばしについて書かれている。



こうしてみると、『くちばし』の文章構成の要素がより明らかになってくる。そして、鳥の特徴をまとめた三つのまとまりを比べると、「相違点」と「共通点」見いだせる。「相違点」からは、それぞれの鳥のくちばしの特徴の違いや、えさの違いが分かる（一文目、四文目、五文目）。「共通点」からは、事実（一文目）→問い（二文目）→答え（三文目）→説明（四文目・五文目）といった構成や指示語などの、論を効果的に展開するために工夫している文の形や表現が自然と浮かび上がってくる。つまりは、「相違点」が「内容面」であり、「共通点」が「形式面」ということになる。両者とも確実におさえておきたい点であり、また、初めての説明的文章との出会い、という教材の価値を考えると、楽しく「内容面」を読み取るなかで自然と「形式面」にも触れさせていきたい。

また、語句に関しては、「するどく」や「すいとる」などの言葉を正確に理解させておきたい。そのため、例を示し、動作を取り入れ、具体的に言葉の理解を進めていく。

ちなみに、教材に登場する鳥は以下の通り。

キツツキ・オウム・ハチドリ・カワセミ・クマタカ・ダイシャクシギ・ベニヘラサギ・スズメ

## ②児童観

本学級の児童は、明るくて活発で、表現豊かな集団である。そして、豊かな表現をさらに育むため、入学してから「ことば」に対して接する機会を多く設けている。朝の黒板には、教師からの一言と簡単な「なぞなぞ」を書き、児童は毎朝黒板の「ことば」を楽しみに教室に入る。

「読むこと」に関しては、学年の取り組みとして「読書の木」と題した読書カードを配布し、より意欲的に本を読む姿勢を助長している。また、週に1時間「詩の授業」を設け、ことばの調子を楽しんで詩を音読

することや、詩の内容を考えることなどを行っている。

「書くこと」に関しては、「詩の授業」で詩（正確には詩の前段階になるもの）を書く活動をして、ことばをならべて表現する楽しさを味わっている。生活科の時間の「学校たんけんをしよう」の単元では、校内の写真をとり、その写真を用いて調べてきたことを発表する機会を設けた。ここでは、「この写真は～です。」という、写真を指し示しながら、簡単な文型に当てはめて発表をすることができた。さらにその単元の中で、発表のまとめとして、発表で「がんばったこと」をそれぞれの児童に書かせた。

○ はっぴょうをがんばりました。しゃしんをつくるのをがんばりました。

○ ぼすたあをつくったことがむつかしかったです。はっぴょうするのがむつかしかったです。

これを見ると、文と文をつなぐことが今の段階ではできていないことがわかる。本単元での学習を通して、基本的な文型を知りそれを活用できるようにし、次の段階へと進めたい。

### ③指導観

まずは、興味・関心を抱きながら、教材の世界へ入っていくことを大切としたい。そして筆者の述べ方の順序（「問い」→「答え」）に着目させながら内容をとらえ、最終的には自分の表現に活用し、次の学習への足がかりとなるようにしたい。

何よりもまず、『くちばし』を読んで、「楽しい」「おもしろい」「もっと知りたい」という気持ちを児童に持たせたい。第一時では生活経験から、知っている鳥の話全体を出し合い、教材へと誘う。また、教科書 p 44にある、鳥のくちばしの写真を提示し、「くちばし」へと視点を焦点化させる。

第二時から第四時までは、三種類のくちばしの特徴についてそれぞれ読み取っていく。「～のくちばしのひみつをみつけよう」というめあてをもって、進めていく。まずは絵から想像をふくらませ、絵を見て気づいたことを話し合う。例えば、きつつきのくちばしの絵からは、「とんがっている。」「つつかれるといたそう。」。おうむのくちばしの絵からは「まるい。」「かたいものがたべられそう。」。はちどりのくちばしの絵からは「赤い。」「ながぼそい。」。といった気付きが予想される。そこから、本文へとうつり、本文の音読をさせる。ここで、「答え」と「問い」に分かれて読むことで、文型を暗に意識させる。次に本文を視写させる。このときに、「文章の中からもひみつをみつけよう」と意識付けをし、文章に着目する手立てとする。文章と絵を対応させながら、内容の読み取りを深めていきたい。

そして、本時ではこれまでの内容の読み取りに加えて、形式についても触れていく。まず、それぞれのくちばしの特徴を確認する。このときに、「きり」と「クラッシュアイス」（氷を砕く道具）と「ストロー」を提示する。それぞれの道具の用途について考えていくうちに、「きり」は、木に穴を開けたりするためにさきが鋭いので、きつつきのくちばしに似ている」「アイスクラッシュは、氷をわるために使うから、種のからをわるおうむのくちばしに似ている」「ストローは、牛乳を飲むときに使うから、はなの蜜を吸う、はちどりのくちばしに似ている」といった発言が自然と出てくると考える。このように、言葉と物を重ね合わせることで、より内容の整理ができ、展開での三種類のくちばしのニックネームを考える活動の足がかりとする。

次に、本文を音読する。隣同士ペアになって、「問い」と「答え」の文章を読み合う。そのときの視点として、三種類の鳥のくちばしのひみつを文章から読み取ることを指示する。前時までに一度していることの確認でもある。

そして、三つのまとまりの文章を比べる活動に入る。三つのまとまりを一行ごとにまとめたワークシートをペアで一枚を配布し、比べる。並べて、三つのまとまりを見比べることで、教科書のページをめくりながら比べるときよりも、より確かな比べ方ができる。そのとき「違い」と「同じ」を見つけることを視点とする。教材観でも述べたように「違い」からは「内容面」を、「同じ」からは「形式面」を読み取ることにな

る。それぞれを、児童の発言にそって、板書、発問をしていき、文章全体の内容と構造の大体をつかませたい。「内容面」にかんしては、それぞれのくちばしを手で模倣したり、絵を比べてみたり、など、具体的な側面から読み取りを進めていく。「形式面」にかんしては、「これ」や「問い」と「答え」の文型など、文章の中からキーワードを出させて、文章の工夫に気付かせたい。

本時の学習の中心活動として、それぞれのくちばしにニックネームをつけさせる。自分なりの表現で、くちばしにニックネームをつけることで、自ずと文章の内容を思考の過程でまとめることができる、と考える。「きつつき」であれば「あなあけくちばし」、おうむであれば「ペンチくちばし」、はちどりであれば「チューチューくちばし」など、特徴を踏まえたニックネームをつけることで、第一次の学習のまとめとしたい。

第二次では「動物クイズ大会をしよう」ということをひとつのめあてとし、学習を進めていく。第一次で学んだ、文型を活用し、そして、自分の表現をもってして動物のクイズを作る。「問い」と「答え」二枚のカードにまとめ、相手に分かりやすいように伝えることを支援していきたい。クイズ大会で、表現したことを伝え合う喜びも同時に感じさせたい。

## 7 単元目標

(国語への意欲・関心・態度)

- クイズ大会をひらくという目的に向かい、教材文の内容や叙述の工夫に関心を持って読もうとしている。

(読むこと)

- 絵や写真を手がかりにして、文章の内容の大体をつかむことができる。
- 「問い」と「答え」の文型や、文のまとまりを意識しながら、声に出して読むことができる。

(書くこと)

- 「問い」と「答え」の文型を意識して、クイズを作ることができる。

(言語についての知識・理解・技能)

- 文の構成や表現の工夫が分かり、教材文を参考にそれらを適切に使うことができる。

## 8 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理 解・技能
自分の考えや、作ったクイズを伝えたいという願いをもって活動しようとしている。	絵や写真と文章のつながりを捉え、文章の内容の大体をつかんでいる。 ・語のまとまりや、「問い」と「答え」のまとまりに気を付けて音読している。	・「問い」と「答え」の構成を考えて、文章を書いている。	・言葉や文章には、まとまりがあることに気が付いて、クイズを作っている

## 9 単元指導計画 (全8時間)

次	時	主な学習活動	留意点
	一	○ 自分たちが知っている鳥や、身	・生活経験から、鳥についての知識や話題を引き出

第一 次		近な鳥について話し合う。 ○ 教材文にある鳥の写真を見て話し合う。	す。 ・くちばしに興味・関心を持たせる。
	二	○ きつつきのくちばしの特徴について読み取る。	・くちばしの形とえさの取り方に着目させる。 ・視写をして、文型を確認させる。
	三	○ おうむのくちばしの特徴について読み取る。	・くちばしの形とえさの取り方に着目させる。 ・視写をして、文型を確認させる。
	四	○ はちどりのくちばしの特徴について読み取る。	・くちばしの形とえさの取り方に着目させる。 ・視写をして、文型を確認させる。
	五 (本時)	○ 三種類のくちばしに、ニックネームをつける。 ○ 問いと答えなどの文構成に気付く。	・具体物を見ること、文章を比べることで、三種類のくちばしの特徴を捉えさせる。 ・三つのまとまりを見比べ、「違い」と「同じ」に注目させる。
第二 次	六	○ 動物クイズカードを作る。	・「問い」と「答え」の文型を使うように指示する。
	七	○ 図書館や学級文庫から、好きな動物を選んで読む。	・相手に分かりやすく伝えることを意識させる。
	八	○ クイズ大会をする。	・「聞き手」の態度についても意識させる。 ・相手にわかりやすく伝えることを意識させる。

## 10 本時の目標

① 三種類のくちばしの特徴を考えて、ニックネームをつけることができる。

② 本時の展開

区分	学習活動と内容 (予想される児童の反応)	指導上の留意点・支援と評価 (・留意点◇教師の支援■評価の観点と方法)	準備物・ 資料等
導入 5分	1. 三つの道具と、鳥のくちばしの特徴をつなげる。 ・きりは、木に穴を開けたりするためにさきが鋭いので、きつつきのくちばしに似ている。 ・アイスクラッシュは、氷をわるために使うから、種のからをわるおうむのくちばしに似ている。 ・ストローは、牛乳を飲むときに使うから、はなの蜜を吸う、はちどりのくちばしに似ている。	・「きり」「アイスクラッシュ」「ストロー」の用途を考えさせる。 ◇ことばで伝えきれない部分は前で、実演させる。	きり・アイスクラッシュ・ストロー

展 開 3 0 分	みっつのくちばしにニックネームをつけよう		ワークシート
	<p>2. 本時の課題を知る</p> <p>○ペア音読をする。</p> <p>3. 本文の構成を確認する</p> <p>○三つのまとまりをくらべる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに、くちばしのかたちが書いてある。</li> <li>・「これは、なんのくちばしでしょう」がくりかえされている。</li> <li>・さいごに食べるものが書いてある。</li> <li>・きつつきは、虫。おうむは、種の中の実。はちどりは、花の蜜。を食べる。</li> </ul> <p>4. 個人で課題に取り組む</p> <p>○くちばしにニックネームをつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなあけくちばし</li> <li>・ペンチくちばし</li> <li>・チューチューくちばし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問い」と「答え」の文章を交互に読むことを指示する。</li> <li>◇くちばしのひみつをみつけること、を視点におく。</li> <li>・「同じ」と「違い」に注目させる。</li> <li>・ペアで考えるよう指示する。</li> <li>・児童の発言にそって、板書、発問を進めていく。</li> <li>■文章構成や内容について気付きをもつことができる。(観察・ワークシート)</li> <li>・これまでの活動を基に、特徴をふまえたニックネームをつけさせる。</li> <li>◇なぜそのニックネームをつけたのかも発表させる。</li> <li>■内容の大体をつかみ、くちばしの特徴をふまえたニックネームをつけることができる。</li> <li>(ノート)</li> </ul>	
ま と め	<p>5. 本時を振り返ると共に、次時への課題をもつ。</p> <p>○「いいな」と思った友達のニックネームを発表する。</p> <p>○次時に「動物クイズ」を作る活動を知ることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を基に、楽しいクイズを作ることを伝える。</li> </ul>	

### ③ 本時の評価の観点と方法

本文の言葉から、くちばしの特徴を捉え、それを違うものに例えたり、オノマトペを使ったりしながら相手に伝わりやすいニックネームをつけることができているか。(ワークシート・発言)

#### 板書計画

